

趣意書

多様化する生活スタイルの郊外化が進む中、多くの人は駅前に対し依然として「賑わいの場所」という期待感を持っているが、その期待と乖離した知多半田エリアの現状に価値を感じられなくなってしまっている。ＪＲ半田駅も高架するにあたり、半田市の顔とも言えるべき中心市街地には将来へのビジョンもなく、時流にまかせたまちの再編が進められています。

今こそ半田市に住む当事者たちが手を取り合い、多様な生活スタイルを認め合いながら、豊かな暮らしが実現できるエリアへとイノベーションを計ることで、知多半田エリアに対して豊かな暮らしと幸せを実感して未来への価値を実感できるようにしていくことが求められています。

そこで、私たちは自分たちのまちの楽しみは自分たちで作ると一般社団法人としての組織を結成し、民間主体で公益性の高いわくわくするような事業活動に取り組んでいきます。中心市街地の人とまちが共に育ち、「豊かな暮らし」に向けたエンジンとなることで、エリア価値の向上やコミュニティを創り出していきます。

この法人は私たちの住むまちに種をまいていきます。

その種は私たちが思い描くまちの半分でしかありません。

残りの半分はここに住む人、訪れる人、関わる全ての人で半分の種となり、

一緒に世話をしていくことで、半田市の未来を創り上げていくことです。

そして、「やっぱりはんだはいいね」と言ってもらえるような想いを込めて

「一般社団法人はんだのたね」を設立します。

半田の未来は当法人だけでなく、地域の人、行政との関りもかせません。

ここで、一人でも多くの当事者を増やし、協力を仰ぎつつ半田の明るい未来を確信してまずは、ここに集いし仲間がたねをまき、一人でも多くの人と手を取りあい、数多くの実や花となっていくことを実現する想いを抱いてたねを撒き続けていきます。

令和５年９月１日

「一般社団法人はんだのたね」発起人一同